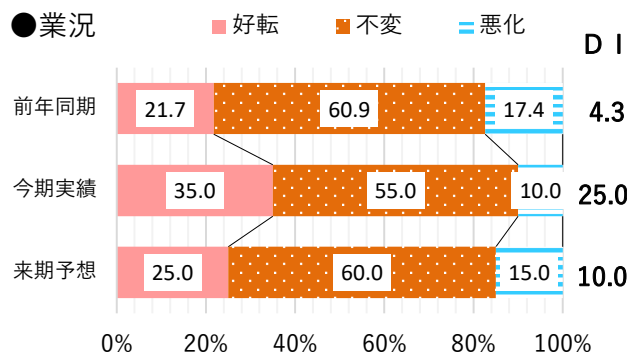


サービス業

業況、売上、採算

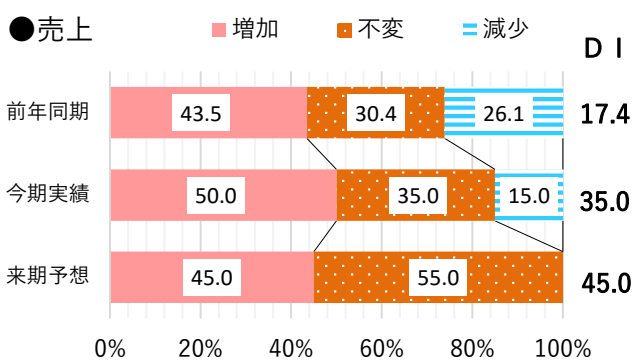
今期（2023.4～6）の業況判断DIは25.0で、前年同期（2022.4～6）と比べ20.7ポイント上昇しました。

来期（2023.7～9）は、業況の好転傾向が弱まると予想しています。



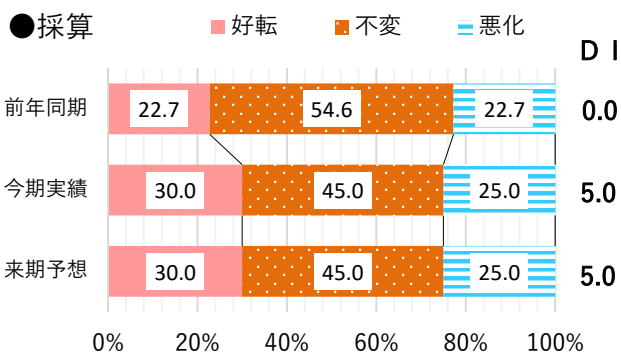
今期の売上高DIは35.0で、前年同期と比べ17.6ポイント上昇しました。

来期は、売上の増加傾向が強まると予想しています。

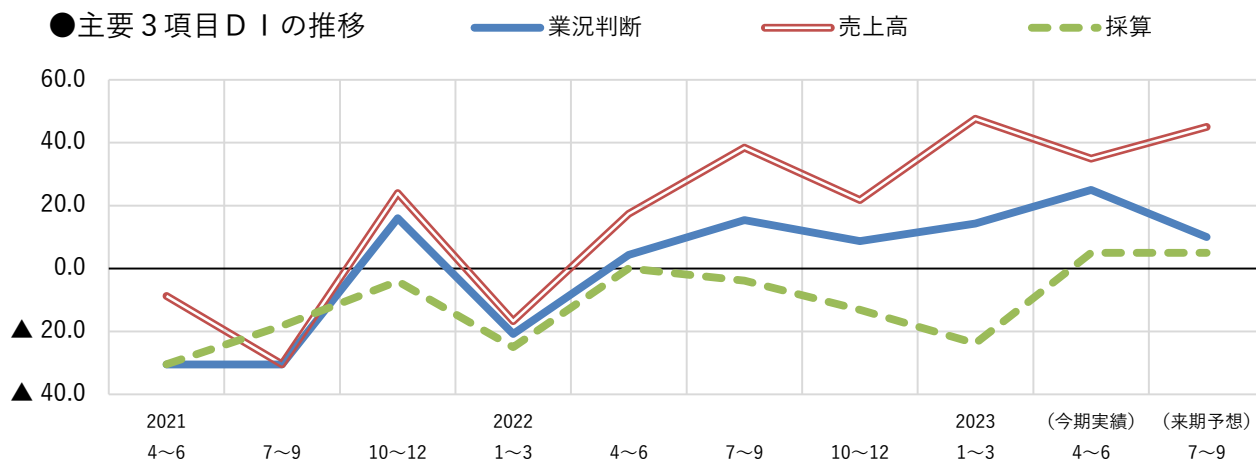


今期の採算DIは5.0で、前年同期と比べ5.0ポイント上昇しました。

来期は、採算の横ばいを予想しています。



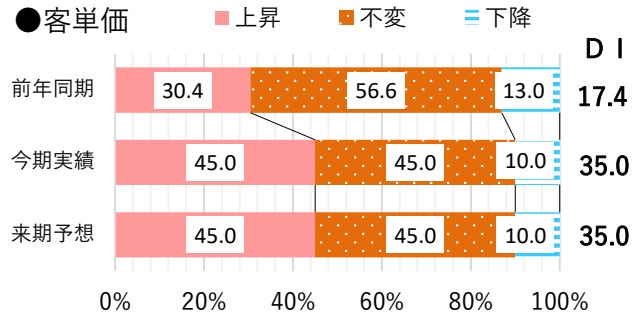
●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、仕入単価

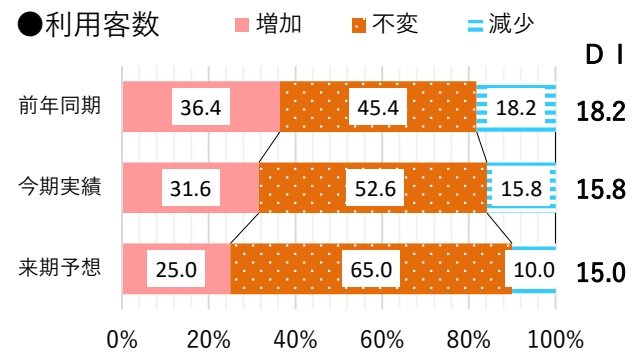
今期の客単価DIは35.0で、前年同期と比べ17.6ポイント上昇しました。

来期は、客単価の横ばいを予想しています。



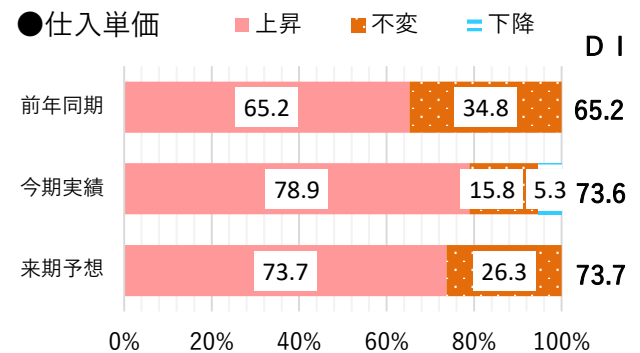
今期の利用客数DIは15.8で、前年同期と比べ2.4ポイント低下しました。

来期は、利用客数の増加傾向が続くと予想しています。



今期の仕入単価DIは73.6で、前年同期と比べ8.4ポイント上昇しました。

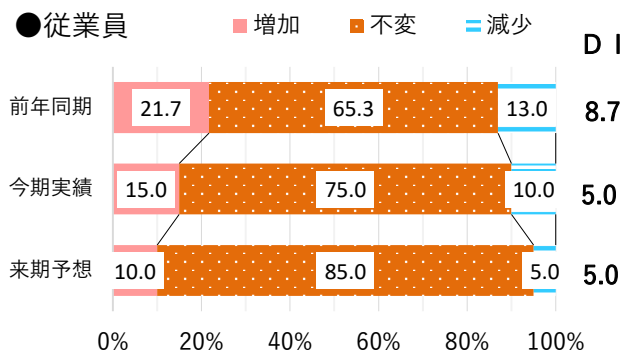
来期は、仕入単価のほぼ横ばいを予想しています。



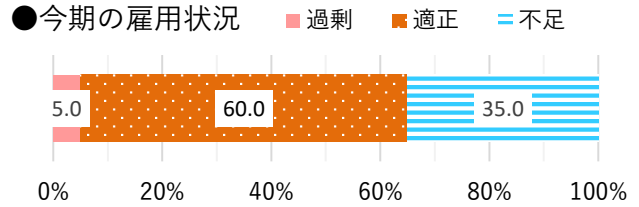
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは5.0で、前年同期と比べ3.7ポイント低下しました。

来期は、従業員数の横ばいを予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は5.0%、適正であると回答した企業の割合は60.0%、不足していると回答した企業の割合は35.0%でした。



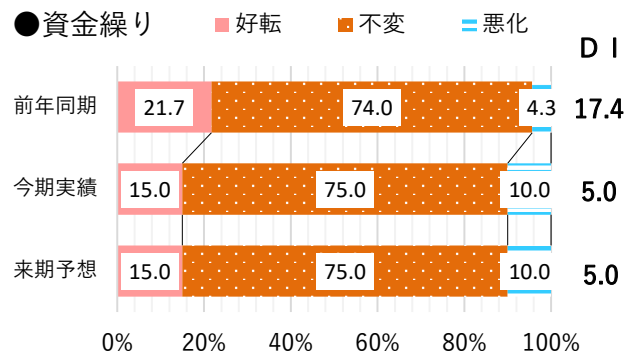
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、55.0%を占めました。回答全体では、35.0%で従業員が不足しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	1
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	11
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	2

資金繰り、設備投資

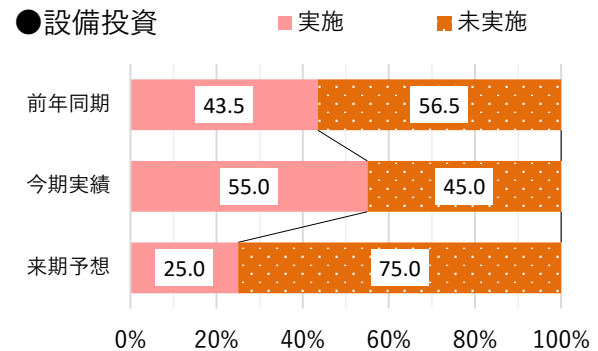
今期の資金繰りDIは5.0で、前年同期と比べ12.4ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの横ばいを予想しています。



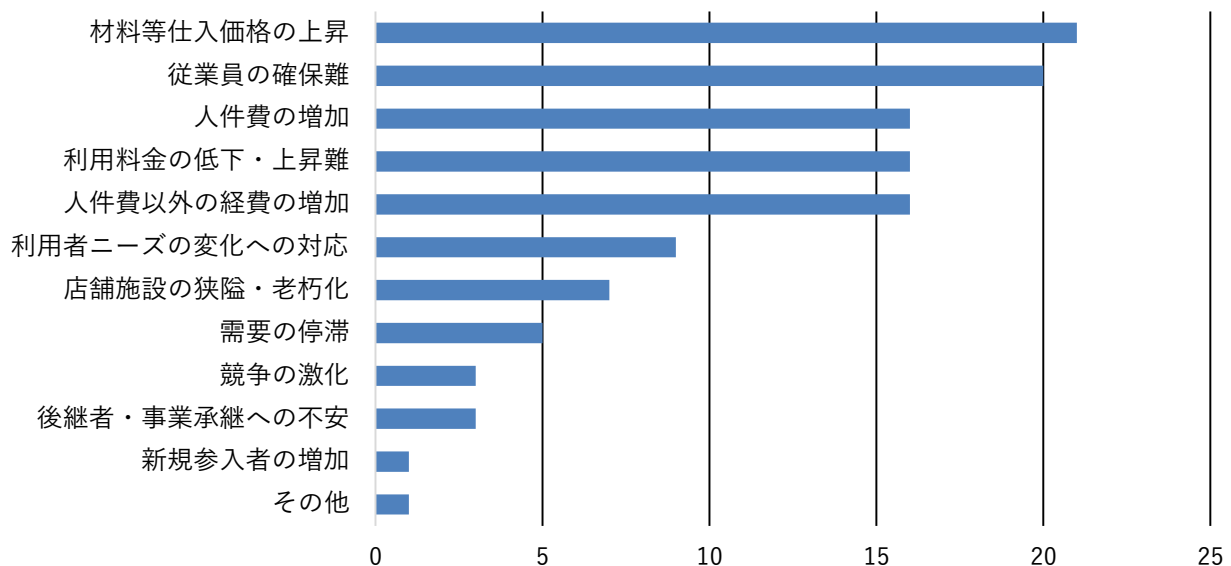
設備投資を実施した企業の割合は55.0%で、前年同期と比べ11.5%増加しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「付帯施設」、「OA機器」、「その他」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は25.0%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「材料等仕入価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「人件費の増加」、「利用料金の低下・上昇難」、「人件費以外の経費の増加」（同位）の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 観光客の増加で売上が伸びているが、仕入価格その他経費は増加している。経常利益はそこそこ確保できている。（飲食店）
- ヘアスタイルを変える方が多い季節で、新型コロナウイルスの5類移行も重なり、外出の機会が増えたため、客数が増えた。仕入価格は上昇傾向にある。人材確保の状況や給与に変化はない。（美容業）
- 仕入単価の上昇により、経費が増加している。（ビルメンテナンス）
- 売上が増加した。（ビルメンテナンス）
- 売上は不変だった。原材料費や電気料金の増大が収益を圧迫している。（情報処理・提供サービス業）
- 市内客の動きが鈍化しており、取引価格も下降傾向にある。（不動産代理・仲介業）
- プレー料金を引き上げ、スタッフを増員した。（スポーツ施設）
- 季節ものの受注や定例的な業務の受注は確保できているが、仕入単価の上昇に伴い、代金を値上げせざるを得ない状況だ。（写真業）
- デジタル化の波により、業況は悪化している。（写真業）
- 利用客数が減少した。（写真業）
- 仕入先のメーカーから多数の値上げ受け入れ要請がある。人材は部署により過不足が生じているが、全体として不足しており、従業員の確保が課題だ。（各種物品賃貸業）

[来期の業況について]

- 今期同様、客数と経費の増加が続くと思われる。（飲食業）
- 秋になるとまた電気料金や物価が上がるため、駆け込みの来客が増えると思う。売上は天気や気温にも左右されるので、猛暑なら客数や客単価が伸びると思う。（美容業）
- 今期に引き続き、売上の増加を見込む。（ビルメンテナンス）
- 未受注が多く売上は悪化する見込みだ。仕入価格は原材料、電気料金などの増大で上昇すると思われる。（情報処理・提供サービス業）

- 大きな変化はないと思うが、高齢化が進行すると、取引の鈍化や価格の低下が進むと思われる。
(不動産代理・仲介業)
- 仕入単価の上昇に伴う値上げにより、受注の減少が懸念される。(写真業)
- 業況はさほど変わらないと思うが、物価の高騰は厳しい。(写真業)
- イベントの時期ではないため、厳しいだろう。(写真業)
- 顧客に対する値上げ交渉を継続する。人材確保に積極的に取り組む。(各種物品賃貸業)